



Vol. 17

PROFILE

1967年新潟県出身。東京女子大学卒業・NY
フォード大学留学・事業創造大学院大学修了
(MBA取得)。現在は「ひるおび!」(TBS)、「ウェ
ークアップ!ぶらす」(読売テレビ)などのメディアで
コメンテーターとして活躍中のほか、事業創造大
学院大学の客員教授として教壇に立つ。国際貢
献やエネルギー関係にも見識があり、国の委員も
務めている。カンボジア、ネパールなどJICA事業
の視察も行っている。趣味はゴルフとスキューバ
ダイビング。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名
人メンバー。

昔から旅行が好きで、休暇を利用
してよく海外に出かけていました。
初めてアメリカに行った時の衝撃は
今でも鮮明に覚えています。一つの
空間にいろいろな人種の人が共存し
ていて、それぞれの個性を尊重し合
って生きている。そこには、日本に
はない解放感がありました。そんな
異国の人々との巡り合わせや新しい
発見が、私を海外に導いてきたのだ
と思います。

大学卒業を控えて、将来何をしたい
のか、明確な答えを出せずに悩ん
でいたころ、天安門事件やベルリン
の壁の崩壊など、世界の歴史を大き
く揺るがす出来事が次々と起こりま
した。日本にいなながらも“世界は動
いている”ことを実感する日々だった
のです。そんな激動の時代に生きて
いるのだから、この現実をもっと知
りたい、そして、その裏側にあるス
トーリーを多くの人に伝えたいとい
う気持ちが強まり、最終的にキャス
ターという仕事にたどり着きました。

異国での出会いが人を成長させる

伊藤 聡子

フリーキャスター・事業創造大学院大学客員教授

ITO Satoko



photo by Koji Sato

実際に始めてみると、私自身が“伝
えたい”ことを視聴者に“正しく伝える”
という難しさに悩むことも多いの
ですが、取材先でのさまざまな出会
いが、私の日々の活力になっていま
す。

社会人になってからは、スキュー
バダイビングが趣味ということもあ
り、プライベートで途上国に足を運
ぶようになりました。いつも豊かな自
然に癒されたいと思って行くのです
が、現地の人々の純粹さや力強さ、
人と人の密接なつながりなどが、日
本で忘れかけていた何かを思い出さ
せてくれるような気がするんです。帰
国する時には、今まで遠い存在だっ
たその国が大好きになっています
ね。ですから、そこで暮らす人々が貧
困や自然災害などで窮地に陥った時
に「なんとかしなきゃ!」という気持
ちになるのは当然のこと。それが国
際協力の原点なのではないかと思
います。

昨年11月、ネパールでJICAボラン

ティアの活動を視察したのですが、
隊員の皆さんの活動地を訪問して驚
いたのが、日本では想像もできない
ような生活環境の中に一人でぽつん
と派遣され、たくましく生きているこ
と。その土地にはその土地のやり方
があり、日本とはまったく違う価値観
の中での葛藤があるようなのです
が、現実と真摯に向き合い、違いを
尊重し、思い合い、助け合っていた。
その姿を本当に頼もしく感じました
し、途上国で育まれた彼らの人間力
は、これからの日本を支えていく上
で本当に貴重だと実感しています。
協力隊の経験が帰国後に存分に発
揮できる場が増えるよう、日本も変
わっていくといいなと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上
国の現状について知り、一人一人ができる国際協
力を推進していく市民参加型プロジェクトです。
ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力の
カタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ nankashinaky.jp